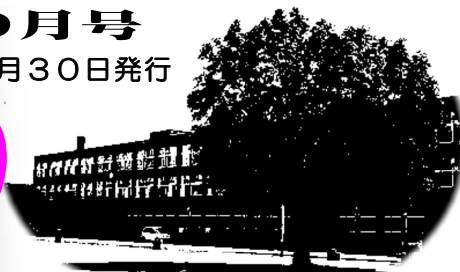




啓北だより

挑む！啓北新時代：より強く より深く より広く 前へ



令和8年度

啓北祭

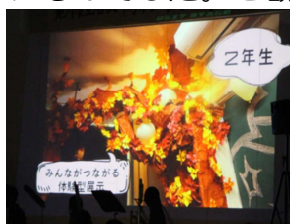
～Next Stage～

開校51年目を迎えた今年、新たな歴史の1ページを刻む啓北祭が盛大に開催されました。

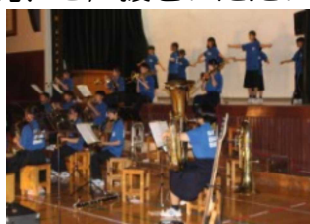
今年度のテーマは「Next Stage」。50周年という大きな節目を越え、次の未来へ向かって進化し続ける私たちの強い決意が込められています。

校内は生徒たちの熱気と弾ける笑顔で満ちあふれました。工夫が凝らされた生徒会のオープニングから始まり、華やかな吹奏楽演奏、全員が心を一つにして挑んだ「合唱コンクール」では、美しいハーモニーが体育館いっぱいに響き渡り、聴く人の心を深く揺さぶりました。また、各教科の学びの成果や美術部・家庭科部の作品展示とともに、1年生は豊かな発想で「未来の啓北中」をジオラマで表現。2年生は近隣の保育園児を招待しながら「誰もが楽しめる縁日」を企画しました。3年生は熱気と迫りに満ちた「ステージ発表」を披露し、最高学年らしい存在感で大いに魅了しました。準備期間を通して深まったクラスの絆は、本番で最高の形となって咲き誇りました。

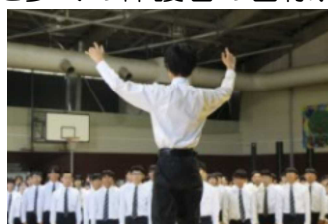
仲間とともに限界を超え、新しい一歩を踏み出したこの啓北祭。半世紀の伝統を受け継ぎながらも、自らの手で輝く未来を切り拓く生徒たちの姿は、まさに「Next Stage」の幕開けにふさわしいものでした。ご観覧、ご声援をいただいた多くの保護者の皆様、ありがとうございました。



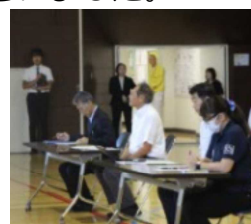
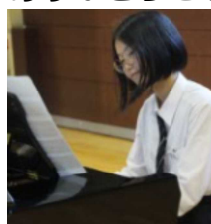
生徒会オープニング



吹奏楽演奏



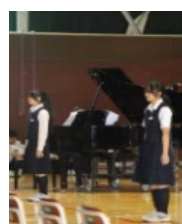
全校合唱



合唱コンクール



3年1組「信じる」



3年2組「虹」



2年生縁日



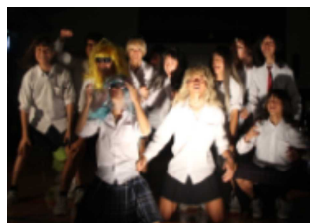
作品展示



1年生ジオラマ制作



販売実習



3年生ステージ発表





SNSが奪う子供の時間

少しだけSNSを見ようと思っていただけなのに、気がついたら1時間以上経っていた。大人でも、このような経験をしたことがあるのではないのでしょうか。

SNSやショート動画には、次々と新しい情報が表示されます。「いいね」が付いたり、通知が届いたりすることもあります。そのため、もうやめようと思いながら、つい見続けてしまうことがあります。最近では、こうした状態を「ドーパミン中毒」と表現することがあります。

SNSや動画等を「やめたいと思ってもやめられない」「生活に支障が出てでも使い続ける」という問題は、子どもたちの間でも起きています。



[SNS・ネット利用による主な影響]

- ①睡眠と生活習慣：夜間の利用で就寝が遅れ、睡眠不足や遅刻、授業中の眠気といった悪循環を招く。
- ②学習時間と集中力：頻繁な通知や動画視聴によって学習時間が圧迫され、集中して取り組む環境が妨げられる。
- ③身体・視力：画面を近くで見続ける時間の増加や屋外活動の減少により、視力低下や運動不足が懸念される。
- ④トラブル持ち込み：放課後や深夜まで続く対人関係の摩擦が、翌日学校へいじめ等の問題として持ち込まれる。

学校では、学びの質を高めるために各教科や教育活動の中で端末を活用しています。これからの時代を生きる子どもたちには、単にインターネットやスマホ使用を禁止・制限するのではなく、子ども自身が利用時間をコントロールする力を育むことが重要です。保護者の皆様には様々な情報提供をしながら、ご家庭とも連携して危険防止の情報モラル教育に加え、子どもたちの心身と生活を守りながら適切に使いこなす自律性を育てていきたいです。

オータムコンサート

啓北祭の2日後の20日（日）に、吹奏楽部の定期演奏会であるオータムコンサートが開催されました。吹奏楽部の3年生にとっては最後のステージになります。これまでの思い出をメロディーに乗せ、ダンスや合唱もあるすてきな演奏会になりました。3年生の引退セレモニーでは、映像を見ながら活動を振り返り、成長を実感できる時間と思います。3年生の姿を見た1・2年生は、吹奏楽部のよき伝統を守りつつ、さらに進化してくれることを期待します。ご観覧くださった保護者や地域の皆様、ありがとうございました。



読書・芸術・食欲・スポーツの秋



「〇〇の秋」と言えば、あなたは真っ先に何を思い浮かべますか？いろいろとありますが、学校は

「学習の秋」です。気温も落ち着き、集中して授業に取り組める環境にあります。教職員もこの時期には研究会や研修会がたくさんあり、よりよい授業づくりのために学んでいます。3年生は進路を決定する時期が迫ってきています。学校は学びの場です。中学生の時期に、様々な教科や活動を通して、自身の資質・能力を伸ばし、可能性を上げていくことが大切です。